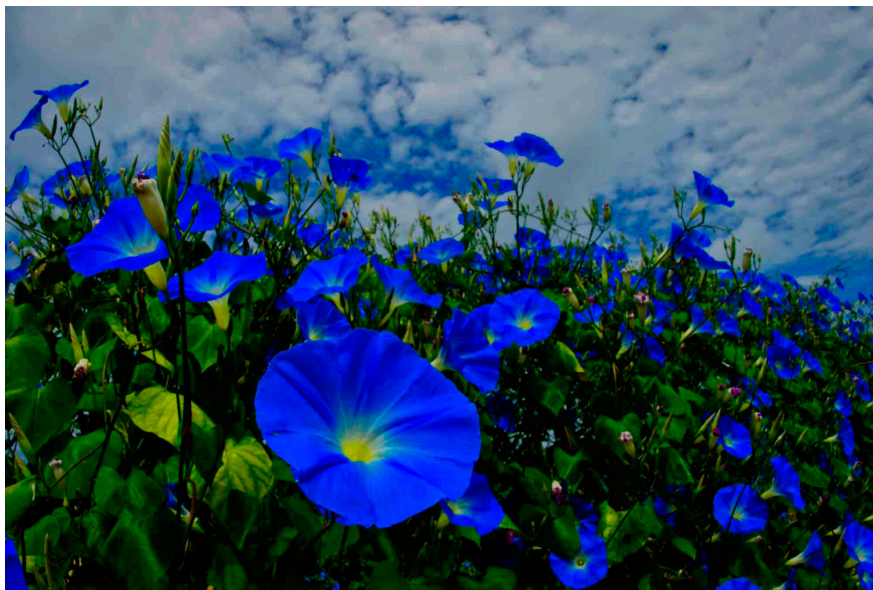


目 次

1. 2025（令和7）年度事業のご案内	2
(1) 第22回広大マスターズ主催講演会	2
(2) 広大マスターズ講師派遣講座	3
(2-1) ちゅーピーカルチャーセンター	
(2-2) 2025（令和7）年度夏期日本語・日本文化特別研修	
2. 会員エッセイ	4
「猫の手プロジェクトから始まった広島大学の男女共同参画／女性研究者支援」	
3. 会員情報	6
新入会員について	



2025（令和7）年度事業のご案内

（1）第22回広大マスターズ主催講演会

『世界の半導体の市場の動向とマイクロメモリジャパンについて』

広大マスターズ幹事 上 真一

標記の講演会を下記のように開催します。

概要：コロナ禍において半導体デバイス不足が産業・社会に様々な影響を与えました。更には最近の AI に代表されるデジタル社会の加速度的な進化により、半導体デバイスが世界経済から人々の生活に至るあらゆる領域で必要不可欠で今後ますます重要になることが改めて再認識されています。本講演では世界の半導体市場の現状と将来について私の会社生活の経験を通して簡単に説明し、その半導体市場の中でマイクロメモリジャパンがどのような会社でどのような役割を担っているのかについてご紹介したいと思います。

講師：秋山 裕明 氏（マイクロメモリジャパンディレクター）



（講師紹介）香川県観音寺市生まれ。広島大学卒業後、日本電気に入社し半導体、特に半導体記憶素子の一つである DRAM（Dynamic Random Access Memory）のプロセス開発を担当し以降、日本電気、ELPIDA メモリ、マイクロメモリジャパンと会社は変わるも 42 年間一貫して DRAM の開発・製造に従事してきました。

司会：上 真一（広島大学名誉教授・広大マスターズ代表幹事）

日時：2025 年 9 月 13 日（土）午後 1 時 30 分～3 時（開場：午後 1 時 15 分）

場所：広島大学フェニックス国際センター・ミライクリエ 多目的スペース

（東広島市鏡山 1 丁目 4 大学会館前バス停前）

主催：広島大学マスターズ

後援：広島大学スマートシティ共創コンソーシアム

入場無料（事前申込不要。どなたでもご参加いただけます。）（定員 60 人・先着順）

お問い合わせ：広島大学マスターズ（上 真一）

電話：090-7541-0701

メール: suye@hiroshima-u.ac.jp

（全角@は、半角に変えてください。）

(2) 広大マスターズ講師派遣講座

(2-1) ちゅーピーカルチャーセンターに2講師派遣

広大マスターズ幹事 金田 晋

2025年度2講師派遣(継続)。

難波平人会員「水彩・油絵」(毎月第2金曜日)

金田晋会員「美術を読むー19~20世紀転換期の美術革命」(毎月第2・第4金曜日)

難波教室は受講者14名(7月末日現在)。この教室でまた自宅に持ち帰って描かれた受講者の作品は、「東広島を楽しくスケッチしよう※」展(本「HM通信」48号参照)に出展されました。

金田教室は受講者10名(7月末日現在)。世界の19~20世紀近(現)代美術のテーマを「生きる悦び」に要約できます。時代の代表作を精読し、作品が何を語ろうとしているかを読んできました。今期特に取り上げた作品は、美術史上最初の個展を開催し、レアリズムを提唱した画家ギュスタヴ・クールベの作品でした。つづいて、ピカソ、マチス、アンリ・ルソーの作品。

2講座とも、ちゅーピー講座全体の中での代表的人気講座の評を受けています。

※「東広島をたのしくスケッチしよう」は、東広島市民講座(東広島市教育委員会主催)の一つとして難波会員が講師を務める講座であり、今年度は「黒瀬を描く」というサブ・テーマで、現地に集まり計4回(5/13—6/3)行いました。参加者40名。この講座参加者にちゅーピー講座受講者が加わり、東広島芸術文化ホール「くらら」で「東広島をたのしくスケッチしよう」展(広大マスターズ主催)が開かれました(7/2—7/7)。入館者705名。因みに前回(2024/11/27—12/2)は入館者674名。入館者数700名前後であることは好評の証。

(2-2) 令和7年度夏期日本語・日本文化特別研修に2講師を派遣

広大マスターズ幹事 金田 晋

2025年度夏期は台湾(7/9—7/22)、非漢字圏(7/24—8/4)、中国(8/16—8/28)の3クラス開講に戻りました(前年度冬期は中国、非漢字圏の2クラス)。受講者数は台湾4名(前年度冬期:—)、非漢字圏16名(インドネシア1名、韓国15名;前年度冬期:12名)、中国34名(前年度冬期:57名)。マスターズからは今期も講師2名を派遣しました。毎年同講座に先立って関係国の大学に日本語懸賞論文を募集していて、今年度最優秀論文(副賞:特別研修への参加費免除)にはインドネシア・バリ島の学生が選ばれました。彼の日本語は抜群でした。

金田晋会員「日本の絵画ー鳥獣戯画の世界」。今期も、世界的に親しまれている日本の漫画、アニメのルーツとして知られる絵巻物を取りあげる。12世紀の国宝「四大絵巻」(源氏物語絵巻、信貴山縁起絵巻、伴大納言絵詞、鳥獣戯画画巻)の名場面を紹介。特に「鳥獣戯画」甲巻について、約10メートルの画卷を初めから順々に鑑賞し、画卷のベースに流れる季節感を大切にしつつ、人跡未踏の荒涼たる冬景色、春から夏への水遊び、秋祭り射的や相撲等の場面転換をその筆遣いも含めて読んでゆく。草、花、木の季節描写は日本独特。受講生はいずれも海外の国立大学等で日本語日本文化を学ぶ学生で、日本語は達人。それでも絵画入りの講義はよくわかるようでした。

渡部和彦会員「日本の伝統スポーツと礼ー武術から武道へ(剣道の演技あり)」。柔道、剣道、空手道に通じる「道」を、日本文化の精神性の特質として講義しました。スポーツと礼の視点から、広大剣道部の学生の解説、実演を交えながら、説明します。さらに柔道がオリンピックの種目となり、剣道がならないのは何故か、日本の伝統スポーツ間の差異についても考えます。授業後半では現代のスポーツ科学とスポーツをする学生へのサポート体制についても言及します。

猫の手プロジェクトから始まった広島大学の男女共同参画／女性研究者支援

広大マスターズ会員 相田 美砂子

広島大学の「猫の手プロジェクト」をご存知でしょうか。広島大学の男女共同参画／女性研究者支援の動きは、完全にボトムアップで始まったものです。もしかしたら、その経緯はあまり知られていないかもしれないと思いますので、ここに、その源泉をご紹介します。

平成17年（2005年）12月、男女共同参画学協会連絡会[1]の委員長から、科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」[2]の公募が次年度に始まる、というメールが全国に送信されました。そのメールを、広島大学の女性の研究員も受け取りました。厳しい環境のなかで頑張っている研究員でした。少しでも環境が変わる可能性があるかもしれない、と広島大学内の数名の女性教員に相談しました。そして、平成18年（2006年）1月、その公募に応募すべく、ワーキンググループ「猫の手プロジェクト」が立ち上がりました。「猫の手プロジェクト」は、猫の手も借りたいほど忙しい、出産・育児・介護期間中の女性研究者に対して、個々のニーズに合わせた支援を提供することにより、女性研究者が生き生きとして研究教育活動に取り組み、大学の活性化と研究の質の向上を目指す、というものでした。

「猫の手プロジェクト」では、調査（広島大学の女性研究者が子育て・介護と研究の両立のために何を必要としているのか）と、データ収集（広島大学の男女共同参画に関する基礎データの収集）が始められました。現在、広島大学のHPには、男女共同参画に関するさまざまな取組やデータが掲載されていますが、当時はまだ、広島大学には男女共同参画関連のサイトは存在せず、必要なデータの収集もなされていなかったのです。そのため、ワーキングメンバー自らデータを収集しました。この時の調査が、広島大学の男女共同参画の出発点となりました。

当時の広島大学長の牟田先生の理解もあり、大学執行部と「猫の手プロジェクト」ワーキンググループとの会合がもたれるようになりました。議論を重ねた結果、広島大学として、猫の手を確保する研究環境の整備と意識改革策の二つを柱とするプランが、「女性研究者支援モデル育成」事業への申請内容としてまとめられました。この支援プランは、CAPWR（Career Advancement Project for Women Researchers）と命名され、「女性研究者支援モデル育成」事業の初年度の公募（平成18年度）に申請されました。

この最初の申請は採択に至りませんでしたでしたが、これが契機となり、広島大学の男女共同参画の基盤整備が始まりました。広島大学男女共同参画宣言（平成18年（2006年）10月17日）、全学委員会として男女共同参画推進委員会の設置（平成19年（2007年）2月）、と続き、「猫の手プロジェクト」ワーキンググループは、女性研究者支援プロジェクト（CAPWR）研究センターという、広島大学の正式なプロジェクト研究センターになりました（平成19年（2007年）2月）。

そして、平成19年度の「女性研究者支援モデル」には、さらにブラッシュアップした「リーダーシップを育む広大型女性研究者支援」を申請することとなりました。その内容は、(1)研究と育児・介護の両立支援環境プログラムと(2)意識改革プログラムの基盤の上に、(3)女性研究者・学生を対象とした広島大学独自の人材育成リーダーシッププログラムを展開することにより、女性研究者の育成を目指す、というものです。その申請は採択されました（事業実施期間：平成19年～21年度）。中国四国地方の国立大学で最初の採択でした。

その採択通知が届いた日（平成19年（2007年）5月）は、広島大学の学長が牟田先生から浅原先生に変わった日でした。牟田先生の時代に始まった男女共同参画／女性研究者支援の流れは、浅原学長に引き継がれていきました。

「女性研究者支援モデル育成」事業に採択されたプロジェクトの活動推進の場として、CAPWRを包含して広島大学男女共同参画推進室[3]が新設されることになりました（平成20年（2008年）4月）。これによって、ボトムアップで始まった広島大学の男女共同参画／女性研究者支援の活動が組織的になったと言えます。事務職員と（主に女性）教員との協働が始まりました。



男女共同参画推進室 開所式（平成20年5月16日（金））（広島大学広報室提供）

（右から高比良 幸藏 文部科学省基盤政策課人材政策企画官、郷 通子お茶の水女子大学長、二宮理事（研究担当）、浅原学長、河本理事（総務担当）、相田副理事（男女共同参画担当）（所属や職名は、すべて当時のもの。）

この「女性研究者支援モデル育成」事業の一環として始めた取組は、今では、広島大学にしっかり根付いています。たとえば、東広島キャンパスに初めて設置された「ひまわり保育園」は、この事業の一環として設置されたものですし、小学校の夏休み、冬休み、春休みに実施される、広島大学の「学童保育」も同様です。最近赴任してくる若い教員はもちろんのこと、多くの教員は、これらを「あたりまえ」に存在するもの、と捉えているようです。隔世の感があります。

現在も実施されている「研究支援員制度」も、その原型は、「女性研究者支援モデル育成」事業の一環として始まったものです。当時は、その運営について前例が全くなく、女性教員の有志が、支援条件やルール作りに奮闘しました。今では、それらはルーチン化して事務的に実施されています。また、女性教員や女性大学院生のMLは、今でも事務的に更新されています。

広島大学では、最初の「女性研究者支援モデル育成」以来、連続して数件の同種の事業に採択されてきています。最近では「男女共同参画」ではなく「ダイバーシティ推進」と表現されることが多くなりました。さまざまな基礎データは、大学によって継続的に収集・公開されています。現在は、越智学長によって、ダイバーシティ推進の取組は深化し、さらに積極的に展開されています。教員だけでなく、理系の女性院生を支援する取り組みも進められています。

参考文献

[1] 一般社団法人男女共同参画学協会連絡会 <https://djrenrakukai.org/> (2025年8月24日参照)

[2] 当時の全国の様子については、次の論文をご参照ください。

犬塚典子(2009), 科学技術振興調整費による女性研究者支援施策, 横幹, 3巻2号95-101.

https://doi.org/10.11487/trafst.3.2_95 (2025年8月24日参照)

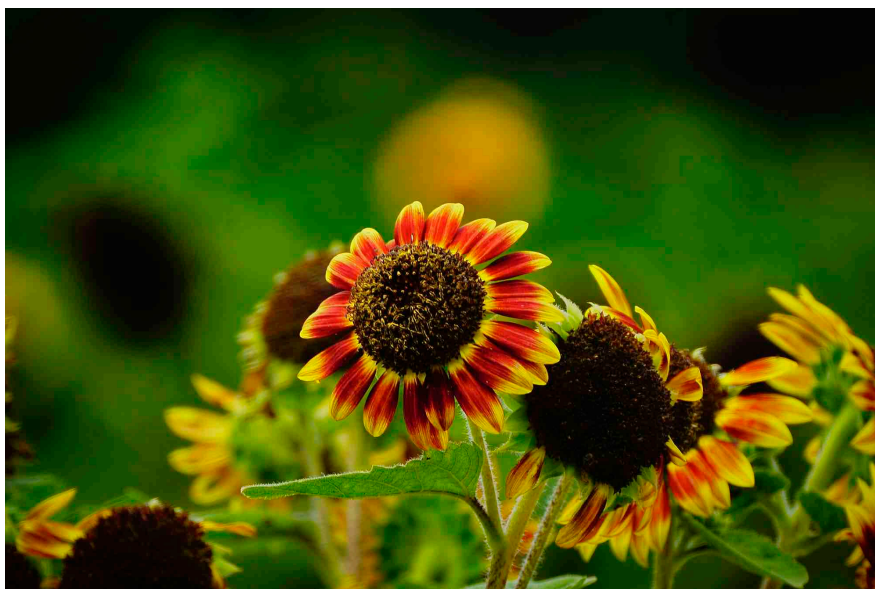
[3] 広島大学男女共同参画推進室 <https://www.hiroshima-u.ac.jp/gender> (2025年8月24日参照)

新入会員について

広大マスタース幹事 岩田 賢司

2025 年度は下記 4 名の新入会がありました(50 音順)。

- ・大塚 攻 氏
(元瀬戸内 CN 国際共同研究センター・統合生命科学研究科・生物生産学部 2025 年退職)
- ・金田 和文 氏 (元先進理工系科学研究科・情報科学部 2025 年退職)
- ・吉中 孝志 氏 (元人間社会科学研究科・文学部 2025 年退職)
- ・若松 昭彦 氏 (元人間社会科学研究科・教育学部 2025 年退職)



【広島大学マスタース事務局】

(郵便物宛先) 〒739-8601 東広島市西条栄町 8-29

東広島市市民協働センター内 メールボックス No.5「広大マスタース」

Eメール：masters@hiroshima-u.ac.jp

独自 HP URL：<https://masters.hiroshima-u.ac.jp>

